
IS ~翼をください~

ジェットエンジントーマス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS ～翼をください～

【Nコード】

N5258S

【作者名】

ジェットエンジントーマス

【あらすじ】

もしも第二回IS世界大会において誘拐された一夏が救出できなかったら。というifから始まる物語。

初作品のうえ遅筆なので色々見苦しい点があるとは思いますが、なにとぞご容赦を願います。
なお、この作品は某歌からの引用を行っていますが、もし問題があるようならばご一報をお願いします。

第零話 『もしもかなうならば』（前書き）

原作アニメにおいて始まりを飾った対福音戦の本歌取りとなります。

第零話 『もしもかなうならば』

衝撃波を伴う轟音を響かせ、機械的な装飾を施した一振りの太刀と紫電を走らせた手刀が火花を散らして交差する。

太刀が相手を切断せしめんと唐竹に振られれば、手刀はそれをいなし首を刈ろうと翻る。

一瞬の油断がまさに生死を分かつ戦場でありながら、それは予定調和の舞踊を見ているかのような美しささえ感じさせた。

「一夏 ツ！」

大振りの太刀を振るう白い女騎士は吼える。

「今更、肉親面してんじゃねえ！」

それを迎え撃つは一点の曇りのない黒一色で染め上げられた機体を駆る一人の男。

彼らが操る機体こそはIS 『インフィニット・ストラトス』と呼ばれる、とある一人の天才によってこの世に創り出された宇宙空間での活動を想定し、開発されたマルチフォーム・スーツであり、あらゆる現行兵器を凌駕する性能を持つ“兵器”であったが、この機体には唯一にして絶対的な欠陥があった。

それは、『女性しか動かすことができない』という一点。

それ故にISは、現在では様々な紆余曲折を経て一部では軍事転用を目的に開発されているが、全体的にはスポーツの一環として定着せざるを得なかったのである。

そのISをまるで手足のごとく操る彼は、本来であれば世界で唯

一のISを扱える男としてその名を世界に知らしめるはずであった、
初モンド・ゲロツンのIS世界大会初代不敗乙女。織斑おりむら 千冬ちふゆの唯一の肉親にして弟
織斑いちか 一夏と言った。
年のころは14、5歳程度だろうか、姉の千冬に良く似た、まだ
垢抜けない幼さの残る容姿を持ちながら、その瞳に輝きはなく、黒
く、暗く、澱んでいた。

「ははははははは！ そうだ、いまさら、全部今更なんだよ！ アン
タが“不敗乙女”ブリュンヒルデなんて呼ばれて世界からちやほやされてる間に、
俺がどんな目にあつてたかアンタはなにもしらねーんだからなあ！
！」

「
ッ

まるでこの世の全てを憎悪するかのような叫びに、千冬はその相
貌を歪ませる。

「こんな“欠陥兵器”を作りやがったあのクソ女も、こんなもんの
せいで歪んだくだらねエ世界も、全部……全部ブチ壊してやる！」

その宣言に呼応するかのように、一夏が纏うISの制御翼から凄
まじいエネルギーが発生し、両肩に備えられた砲門から閃光が迸る。
圧倒的な威力と発射速度を誇るそれを、しかし千冬は経験とそれ
に基づく機体制御能力を持ってして回避。砲撃の熱によって空気が
文字通り焼けるのも気にせず、大型のスラスタに火をいれ加速
瞬時加速と呼ばれる技術を持ってして一夏の懐へと潜り込む。
イグニッション・ブースト

剋

！

「はっはあ！ 馬鹿の一つ覚えみたいに接近戦か、老兵ロートル！」

「……若輩者^{ルキ}が、良く吼える……、お前が私を恨むのは良い。それだけのことを私はしたのだから……」

そして再び太刀と手刀は均衡する。

お互い血を分けた唯一の姉弟でありながら、交わすのは言葉よりなお鋭い刃。

あまりにも無残なその光景は、先ほどの美しさとは逆に、見るものが目を背けたくなくなるような醜悪で満ちていた。

「だが、あいつの想いと無念を無碍にするその行為は、お前の姉として是が非でも止めさせてもらおう！」

「何様のつもりだテメエ！！」

瞬間の激昂。そして衝撃。まったく同じタイミングを以って二人の距離は再び元の位置へと戻っていた。

幾度となく打ち合った武器はすでにボロボロで、機体の稼働エネルギーも残りわずか。

機体の性能差からすれば確実に一夏に利があり、けれど経験は千冬に利があった。

それゆえの均衡。

それゆえの不利。

千冬は、人知れず己の死を悟った。

「……お姉様だ、ばか者」

「……はっ」

その言葉に含まれるのは謝意か懇願か。

それに答えるは嘲笑か諦観か。

答えを知ることの意味はなく、また自らの意志を通すには刃を通す事しかないと、二人は再び武器を交え、そして

ライダー
装着者の死亡に伴い、ワンオフ・アビリティ
単一使用能力の起動を承認

単一使用能力』
』の継承を許可しますか

かみさま おねがいがあります

もしかなのならば つばさをください

あのそらをとびとりのよつに しるくおおきいつばさをください

だれもなくことがない じゆうをください

かみさま かみさま どうか おねがいします

つばさを ください

第零話 『もしもかなうならば』（後書き）

プロローグ（一夏の狂気）でありエピローグ（千冬の苦悩）です。
バッドエンドから始まる物語もたまにはいいよね？

第一話 『まもるひと』（前書き）

こーしょん。

この作品はフィクションであり、実在の人物、団体、事件などには
いっさい関係ありません。

関係ありませんったら関係ありません（・・）

第一話 『まもるひと』

昨日たっぷり太陽の光を浴びた布団は、ふんわりとした手触りで体を包み、洗いざらしのシーツに手足がこすれるたびに、えもいわれぬ快感が脳がとろけさせる。

ああ……なんと**至福**。

寒さ厳しい冬が過ぎ、空気が柔らかく感じる小春日和の朝のひと時を布団の中で過ごす以上の贅沢など、そうそうあるものではないと思う。

……そう、飽くまで“**過ごせれば**”という注釈はつくが。

正直に言えば飽きる位この至福の贅沢に浸っていたが、自分に課せられた状況がそれを許すはずがなかった。

カチリ。と音を立て、部屋と廊下を隔てる扉が開き、そこからひんやりとした空気と共に、一人の少女が部屋の中へと侵入してくる。いまだ幼さの抜けきらない小柄で華奢な容姿でありながらも、その目鼻立ちは日本人のそれとは違い、はつきりとした輪郭を描き、毎日の手入れを欠かさないことが良く伺える艶やかな銀系の髪は緩やかに波を打つ。

その瞳は凜とした光をたたえた紅玉のような輝きを持ち、見るものを**蠢惑**する不思議な魅力を漂わせていた。

ラウラ・B・ニ之前。ポードウィッチそれが彼女の名前にして、自分の血の繋がらない家族の一人であり

「春次、ありがたく思え。姉が起こしに来てやったぞ。朝食はまだか」

目下のところ、自分をおさんどん扱いするハラペコな姉であった。

「むぐむぐ……うむ。今日も春次の作る料理は美味しいな！」

昨日の夜にたっぷりと吸水をさせ、なおかつ今では希少なウバメガシの備長炭を入れて炊き上げた米はふっくらと艶やかな輝きに満ちている。

主菜には3日前に水揚げされ、丁寧に熟成させた鯖をその繊細な甘さを損なうことがないようにと必要最低限の天然塩で焼き上げ、今朝取ってきてもらったばかりの刺身にしても食べられるであろう新鮮な若竹の子を軽くあぶって付け合せに添える。

汁は個人的に借りている家庭菜園からとってきた大根の味噌汁と、箸休めにナスの浅漬けをつけた典型的な日本の朝食を前に、ラウラは待ちきれないとばかりにいただきませすの挨拶もそこに箸をつけた。

「ラウラ、行儀が悪い。きちんと作ってくれたお百姓さんに感謝してから食べなさい」

「む。もっともだな。姉としたことが失態だった。改めて……頂きます」

そうしてしばし咀嚼の音ダイニングを満たす。

どうでもいいことではあるが、ラウラは箸を使える上に正座もマスターしていたりする。

本人いわく『日本の食器や食事に慣れるとフォークやスプーンなどの金属じみた味が舌にきつい』らしい。

食後にはもちろんお茶を頂く。最近の流行はほうじ茶だ。

これも既製品ではなく、ちゃんと番茶を奉書紙の上に乗せ炭火であぶったものを使って淹れている。

このとき重要なのは都市ガスなどではガス臭くなってしまい、折角の香ばしい香りが飛んでしまうのでご注意いただきたい。

「ふう……ご馳走様でした。姉は満足したぞ」

「お粗末様。あ、食器は流しに入れておいてくれ。今日の予定だとそろそろ会議室に向かわないと間に合わないからな」

「む。もうこんな時間だったか。場所は第三会議室でよかったか？」

「ああ、それでいいはずだ……よし。火の確認も済んだし、そろそろ出ようか」

「うむ」

今からおよそ十年ほど前になるだろうか……一人の天才がある発明を発表したことにより、世界は劇的に変化せざるを得なくなつた。その原因が『Infinity Stratos』 “無限なる成層圏の果てへ” という製作者の夢を名づけられた女性しか使えないマルチフォーム・スーツ。

本人いわく、『天の川を泳いでみたいから作ってみたんだよ』とか言っていたが……むしろ“貴女の頭がお星様です”と言いたいですごく言いたい。

ふんぱんこ
閑話休題。

まあ、当時はそのあまりにも逸脱しすぎた技術力の塊のせいで世間からはそっぽ向かれていたが、ある事件によって世界はISに注目させられた。

そう、製作者の意図に関係なく“兵器”として注目させられた。それが不幸の始まり

ISの発表から一ヶ月、鳴かず飛ばずで世間からその存在自体が笑い話として消えようとしていたあの夏の暑い日。

唐突に世界中の主要軍事基地がアンノウンからハッキングを受け、核を除く総数2341発のミサイルが日本に向けて発射されるも、一機のISにその半数ほどを叩き落されたあげく、その後平和条約を無視して派遣された戦闘機207機、巡洋艦7隻、空母5隻、監視衛星8基のことごとくも一切の死者を出すことなく無力化させら

れた、俗に言う『白騎士事件』。

これによりISは“性能の良い宇宙服”ではなく“戦略兵器”として世界に知らしめられてしまった。

（博士はこの時のことを泣きながら語っていたな……『あの事件のせいでISが“兵器”って思われちゃったんだ……ちーちゃんや篝ちゃんと一緒に星の海を泳げなくなっちゃった……』って……）

そんな紆余曲折もあって世界に浸透していったISではあるが、事態はそれでは済まなかった。

なんと各国が『ISは軍事力だから日本が保有するのは憲法違反だ。情報を全て開示して存在するISは全て明け渡すか、できなければ破棄しろ』と、日本政府に圧力をかけてきたのだ。

これには当時の政治家も対応に苦慮したという。発表されたISのスペックからすれば戦闘能力などなく、日本に発射されたミサイルを打ち落としたのも手にした“一本の鉄骨”だったのだから。

はつきりと言い掛かりだと突っぱねることもできたのだが、事実として過剰火力とも言うべき戦力をその鉄骨一本で退けてしまっているために正当性が伝わらない。本気で手詰まりかと思われたそのとき、ある政治家が動いた。

彼は己の首を賭け、世界各国に対して日本国にミサイルが発射されたことと、条約を無視した侵略ともみえる行為に抗議し、日本国憲法において“自衛権の放棄”はしておらず、今回の件も国家の軍事力ではなく、民間有識者による善意の協力の下なされた事だと言いつつ放った。

これには一同が呆然とした。ほとんどの国が『日本が“遺憾”ではなく直接“抗議”だ……？ ヤバイ』と戦慄したのである。

更に追い討ちをかけるように博士が『希望した国にはISの製造技術を“提示”する。独占はしない。ISのコアは“材料上限られている”ので各国で分担』と宣告したのと、命令だったとはいえ条約を無視した侵略まがいの行為に各国の軍人の士気が軒並み最底辺だったことから、これ以上ゴネても損をするだけだろうと各国も落とし所を見つけてその矛先を収めた。

そして新たに各国間における『世界IS運用協力規定条約』、通称アラスカ協定が定められ、ISコアを受け取った各国出資の元、博士のいる日本に“あらゆる国家機関に属さないISの整備・製造・操縦者育成用の特殊国立専門高等学校”と、日本独自の出資によるISの運用組織が設置された。

長くなったが、そうした事柄により日本も独自のISによる自衛力を持つことができるようになり、そのために発足された運用組織が俺たちが所属している此処 『国土管理室』なのである。

自分たちが暮らしている単身者用の居住区域から本棟にある第三会議室までは、普通に歩いて10分程度の距離がある。

道すがらには春の日差しに誘われて目を覚ましたのか、あちらこちらにほころぶ花と芽吹く緑が目優しい。

「ふむ、今年は桜も早めに咲きそうだな」

そんなラウラの声に、ひときわ目を引く大きな修善寺寒桜が目に入った。

そう言われればなるほど、開花の早い寒桜らしく2〜3輪はすでにほころび、他のつぼみも軒並み紅く色づいてきていた。この具合ならもう……

「そうですね、一週間もしないうちに咲くかと思われます」

「……クラリツサ、急に出てくるな。それと気配も消すな」

「これは失礼しました。お楽しみだったようなので空気を読んでみました」

「なにがだ……」

視線を下に向ければ、まるで桜の幹に身を隠すかのように顔だけ出してこちらをのぞきこんでいた一人の女性……クラリツサ・H。ハルフォーフ二之前。俺のもう一人の血の繋がらない姉であり、

「いえいえ、皆まで言わずともこのクラリツサ、デキる女を自負しております。桜の咲く道で共に歩く男女。手を繋ぐまでもなく繋がれた心と心は花をほころばせ乱れ咲く大輪の花に囲まれた二人はやがて身もつながら桜を色づかせる一筋の愛の証をところで眼帯をしてくれませんかチ ク姉」

「黙れ狂リツサ。」

若干……いや、だいぶ変な女性めである。

ドイツにいたころは割りと普通だった印象なのに、日本に来た途

端どつしてこうなった……

この二人との出会いはまた後で詳しく語るとして、今は……

「二人ともそこまで。そろそろ行かないと遅刻になるぞ？」

喧々諤々としている二人をなだめ、道を急ぐことにしよう。

『国土管理室』

このいささか風変わりな名前を持った組織が作られた背後には、中々複雑な事情があった。

現在では5年前から開催されるようになったISを使用した試技競技大会、通称世界大会モンド・グロツンのお陰もあってか、スポーツ観戦の一種として定着した感のあるISではあるが、各国の運用組織を見てみるとそのほとんどが軍か、それに付随した企業によって運営されているのがわかる。

アメリカの合衆国空軍然り、ドイツの秘匿部隊シュバルツェア・ハーゼ然り、フランスの航空機製造会社然りである。デュノア

しかし日本には残念なことにそこまで大きな軍需産業はなく、かといって自衛隊に組み込もうにも世論のあおりを受けて国防費が減

らされているために、ISの開発費が工面できないという世知辛い事情が存在していた……。

自衛隊を解体してIS専門の組織を、という声もあったにはあったのだが、そんなことをしてしまえば一時的にはいえ日本が無防備になってしまうし、災害派遣のための人員確保もままならなくなってしまうので即却下された。

ISがいくら優秀でも数が限られている以上、数をそろえられる人海戦術には敵わないというわけである。

まあ、そのおかげ(?)で日本では諸外国と違ってISによって軍編成が大幅に一新されて大量の失業軍人ができたり、女尊男卑の風潮が蔓延せずに今だ男女同権の気風が辛うじて残っているので、何が幸いするかわかったものではないのだが。

しかしながらISの開発・運用は世界規模の情勢から見ると急務であるとされ、特別に内閣府直属に組織されたのがこの組織であった。

「失礼します、機甲部隊隊員一同、到着いたしました。入室の許可を願います」

「はい、ご苦勞様。椅子にかけて頂戴……かんざし簪ちゃん、お茶の用意をお願いしますね」

「はい、お祖母様」

そしてその組織の代表がこの目の前にいる上品に年をとられた女性、あずみ阿曇 いそら磯良室長であり。旧姓 ま更識 いそら磯良としてこの日本を影から守ってきた一角の人物である。

外見からは想像もつかないが、これでも先々代『楯無』として洋の東西問わず様々な攻防を各国と繰り広げ、これを撃退してきたら

しい。

その背後に控えている眼鏡をかけたブルーブラックのセミロングの少女は彼女の孫であり、自分たちと同じく『国土管理室』に所属するもう一人の仲間　　更識　簪である。

「……おはようございます。春次さん、ラウラさん　　同志ク
ラリツサ」

だからどうしてこうなった。

いや、わかってる、わかってはいるんだ。

元々その素養もあり、周囲に理解してくれる同好の士がいなかったためにおおつぴらにできなかった彼女の趣味が、クラリツサ自重しない人とかかくへんか混ぜるな危険をして開花。

結果、会った当初は常に周りから一步引いて控えめにはにかむような、まさに古き良き大和撫子然とした愛らしい子だったのに……別に今の性格が悪いなんていうつもりは毛頭無い。無いんだが……自重してくれないかなあ……

今も早速隣に座っているクラリツサと『今期のライダーはメダルなんですよね……』とか『ひ x ア ク……近親！ この流れで義理姉弟もいける！』とか『……略奪……うん、がんばろう』とか、
アーアーキコエナイ。

お前ら少しその欲望をメダルに変えてもらってこい。

磯良さんもその様子を見て『昔のあの子は内にこもるばかりで見
ていて少々不安でしたけど、今のあの子はとても良い顔で笑うよう
になったわ』ところどころと微笑むばかりだし……

「さて、人心地ついたところで簪ちゃんも座って頂戴？ ……本日

皆さんを呼び出した理由ですけれど、勘の良い貴方ならもうわかっているわよね？」

「あゝ、……IS学園に今期入学する新入生徒について、ですね」

その答えに室長は薄く微笑むと、『大正解』と書かれた扇子を広げた。

「詳しく説明するとね、今期入学する子の中で三名が各国で新たに製造された第三世代型を所持しているの。今までは一人、多くても二人位しか専用のISを所持していなかったのですけれど……」

そして今度は裏返しにすると『困窮>|<』……いや、その顔文字はどうよ？

「運用試験機ですから代表ではなく候補生に持たせて、少しでも稼働率を上げて情報を収集したいというのは、わかるのよ？ でも今年はそれだけでは済まないの」

「　　今年は篠ノ之博士の妹さんと織斑　千冬がいる……ですか。IS学園の防御を疑うわけではありませんが、こども宝物が多いと悪いものが出てきそうですね……」

その答えに満足したのか、再度扇子を開帳して『聡明（ハ・ハ*）ノ』……って、さっきまでと文字が違う？！

「そういう事情もあって皆さんにはIS学園に入学していただき、要人警護の任に当たっていただきます。……ラウラちゃんは色々と彼女に思うところがあるでしょうけれど、我慢して頂戴ね？」

「……了解しました」

あゝ、ドイツでの件か。ふむ、そうなるとラウラは織斑教諭関連からは外した方が無難……か？ 実のところを言つと俺もまずい部分があるが、ラウラのように任務に支障をきたすような内容ではない分だけまし、だと思いたい。

クラリツサはさほど気にしてもいないようだから問題は無いとして……あとは各国から来る機体の詳細か。

「要警護対象者の詳しいプロフィールと機体の詳細はありますか？」

「ええ、こちらよ」

差し出される3枚の書類。

その内容は……

『イギリス代表候補生、セシリア・オルコット。ISランクA-。1年1組参入予定。』

英国の名門貴族、オルコット公爵の孫娘であり、現在の血族は彼女一人となっている。

専用機体『ブルー・ティアーズ』。思考制御汎用稼働兵器を使用した第三世代型IS。』

『中国代表候補生、ファン凰 リンイン鈴音。ISランクB+。1年2組参入予定。過去渡日経験があり、その際に『織斑 一夏』と交友関係にあった。両親の離婚に伴い母親に引き取られ母国へと帰国。』

専用機体『シエンロン甲龍』。空間圧縮砲を主砲においた燃費の良い第三世代型IS。』

『フランス代表候補生、シャルロット・デュノア。ISランクA。』

1年1組参入予定。

フランスの大手航空機製造会社『デュノア・コンパニー』社長の非嫡出子。父親との仲は良好ではあるが、母親とは不仲の模様。

専用機体『オラージュ・ルージュキューエ』パススロット。欧州初の第三世代機で、ラファールの流れを汲んだ膨大な拡張領域と、それに格納された武器を扱う複数の作業アームを持つ機体。』

この3名か……一名厄介な人物もいるが、はて？

「室長、ドイツはどうなっているのでしょうか。確かレーゲンタイプが実戦用実証機として上がっていたはずですが」

うん、そうだ。ラウラが変わりに聞いてくれたが、提示された情報の中でドイツだけが抜けていた。

まさか候補生が用意できなかつたわけでもあるまいし、機体に故障でもあったのか？

「ドイツはね……幽霊に盗まれたようなの。しかも3ヶ月も前の話よ、検証データや予備機のツヴァイクも中破状態らしいから、暫くはドイツ候補生の入学は無いと思つた方が無難ね」

「……はっ」

こらその元ドイツ人二人。色々と思う所があるのはわかつてるから鼻で笑うのはやめなさい、はしたない。

「しかしこの時期に欧州で一番実戦機に近い機体が強奪、ですか。いささかタイミングが良すぎますね？」

「……そうね。昔から各国の影に幽霊がちらついていたし、盗まれ

では取り返し、また盗まれては取り返しと続いて、不思議と稼働データだけがたまっているのよね……」

「実戦に勝るデータは無し。ということですか」

「腐ってますね……早すぎたんで、しょう（／／／）」

恥ずかしがるくらいならネタに走るな、簪。

クラリツサも『ISさえ出せれば「なぎはらえー」ができたのにっ』とか悔しがらない。

しかしレーゲンが盗まれたとなると最悪でアラクネ、ゼフィルスをあわせた3機の同時襲撃が考えられる、か。

レーゲンの慣性停止結界は攪乱中衛の俺が対応可能だとして、アラクネは高機動後衛の簪が相性が良いし、ゼフィルスも突撃前衛のラウラが相性が良い。

重火力後衛のクラリツサは今回は戦闘補助要員についてもらうか。

「任務了解いたしました。なおこの作戦における前衛要員として二之前 春次機甲部隊長以下、ラウラ・B・二之前隊員、更識 簪隊員を。後衛要員としてクラリツサ・H・二之前隊員を推挙いたします」

「国土管理室室長、阿曇 磯良の名をもって受諾いたします。隊員の皆さん一同は与えられた任務を全うし、何事もないよう勤めてください」

「……了解しました！」「……」

こうして、この俺
二之前このまえ 春次はるじくの記憶に最も残ること
なる長い一年が、幕を開けた。

なぜなにISS〜翼をください〜 略して『なぜツバ』！

Q・ミサイル発射をハッキングしたのは東さんではない？

A・この作品において東さんがISSを作ったのは『千冬や筭と一緒に宇宙遊泳したかった』からであり、それに対して戦闘力を見せるようなパフォーマンスは逆効果でしかないので、ハッキングは“別の誰か”の仕業とさせていただいております。

Q・白騎士が落としたミサイルが半数になっただけ？

A・全部が全部一箇所に向かって発射されたわけではないので、白騎士が守ったのは首都圏に落ちそうなものだけという設定です。後のミサイルはJ隊や在日米軍の人ががんばった。

Q・IS学園に出資しているのが日本だけではない？

A・過失とはいえミサイルぶち込んだんだから責任はとれや？ っ
てこと。

Q・ISコアがわざと限られているような感じに見えるんだけど？

A・人間誰しも『希少性のあるものを与えられれば自分が特別だと感じて満足する』ってことです。

Q・なんで日本にもIS用の運用組織があるの？

A・専守防衛は日本独自の国防手段であり、ISに勝てるのはISだけ。そしてIS学園は“あらゆる国家機関に属していない”ために日本のものではない。後はわかるな？

Q・クラリツサと簪が……

A・混ぜるな危険コンビ。でもすでにデフォルト平常運行です。

Q・千冬さんが今期からIS学園で教師をしている？

A・一夏が誘拐されたままのため、ギリギリまで搜索していたのでこの時期になりました。

でも1組担任。ブリュンヒルデのネームバリューは伊達じゃない！

など、上記設定については『く翼をください』『独自の物となっております。ご了承くださいませ。』

第一話 『まもるひと』（後書き）

気の向くままに書き連ねていたらえらく読み辛く出来上がってしまっただ感が……文章をまとめる才能がほしいです、切実に……

何が言いたかったのかというと、鉄骨一本でミサイルを叩き落す千ふゆ……白騎士と食い物の事以外で怒った日本人パネエって話。

あとは全部蛇足。

てか書いてて某政治家がムダヅモのジュンイチローに見えてきてしまった……

フラグメント？ ～篠ノ之 束～（前書き）

番外編扱いで束さんの過去話（白騎士事件～アラスカ条約締結前）
となっております。

色々のご都合主義が過ぎている部分もありますが、寛大な
お心をもってお読み頂ければ望外の喜びに存じます（やばい、内容
に影響された）

フラグメント？ く篠ノ之 束

1. “Down the Rabbit-Hole”

空を飛びたいと願ったのは妹で、それを叶えようがんばったのに世界に裏切られた。

夢を叶える科学は敵を屠る凶器となり、翼は折られた。

世界が自分に猜疑の目を向ける。家族すら信じてくれない。

友人ですら『やりすぎだ』と、まるで私が犯人のであるかのように諭してくる。

ああ、ああ、世界は こんなんにもツマラナイ。

私は孤独、私は孤立、私は単一。

私は、ふしぎの独りきりの王国の王様。アリス

2. “The Pool of Tears”

夢を見た。確か篝ちゃんが5歳の誕生日のときだったと思う。

『ほーきちゃんほーきちゃん、おたんじょーびのプレゼントはなにが良いい？』

『たんじょーびい？』

『だよー おねーちゃんなんでも作れるよおー！』

『おほしさまー！ きらきらひかるのー』

『宇宙かー、よーし、おねーちゃんがんばるよー』

今にして思えば他愛も無い子供同士のふざけあい。

けれど、当時の私はたった一人の妹の願いを、一生懸命叶えようと一杯一杯勉強した。

空を自由に飛べるようにと『反重力力翼』や『流動波干涉』の理論を作り出し……

宇宙空間で事故が起きない様にと『ハイパーセンサー』や『絶対防御』も考えた。

お金が足りないときは、考えた理論の中で特に問題が無いようなものを選んで偽名で企業に売ったりした。

そして篝ちゃんが9歳になったとき、やっと試作品の『白』が完成した。

私は喜んだ。

喜んで篝ちゃんやお父さんお母さん、ちーちゃんやつくくんにも見せたら……、いつの間にか『白』が世界に知られていた。

あれ？　なんで？　と思っただけどどうでも良かった。重要なのは『白』を家族みんなや友人の分も作ってお星様を見ることなんだから。

だから　『篠ノ之束博士、貴女の研究は非常に危険だ。このままでは日本が要らぬ力をつけてしまい世界が混乱するだろう。非常に残念だ』　なんて脅迫文も気にしていなかった。

そうしたら、日本にミサイルが発射された。

あれ？　え？　なにこれ……

ミサイルが日本を焼き尽くすまで最短で15分。最長で45分。

自衛隊や在日米軍も動いているとニュースで言ってるけど、全部落とすのは私の計算でも不可能。

可能性があるとすれば　理論上は極超音速を出すことができる私の『白』ゆめのかたちだけ……。

でも『白』はそんなことに使うものじゃなくて、でも使わなきゃみんななくなっちゃって、でも、でもでもでも　！

『　東！　以前お前が見せた機械を貸してくれ！』

……………ワケガワカラナイ。

結論としては、ちーちゃんのお陰でみんなは無事だった。

けど、ちーちゃんは帰ってくるなり『やりすぎだ。もう少し考えろ』と責めるように白い目を向けてきて、家族も怯えるようにこち

e Bill”

あのミサイル発射事件から一週間後、あの事件は結局『白騎士事件』と名づけられた。

私は日々を変わず過ごしている。

へらへらと笑って。

興味が無いものには見向きもしないで。

日々を変わずに、変わることなく、過ごしている。

唐突に、頭を後ろからはたかれた。

この天才東さんの頭をはたくなんてー、と憤慨して振り向くと、
中学からの同級生がいた。

またはたかれた。失礼だと思っ。

『なにがあつた』と聞かれた。『なにも』と答えるとまたはたか
れた。無礼だと思っ。

『この科学部部长、天目一箇あまのまひとつ 誠甘郎せいでいじょうを甘く見るな、何があつた』
と聞かれた。『自己紹介乙』と言ったら撫でられた。理不尽だと思
っ。

『誰に泣かされた』と聞かれた。無視したらくすぐられた。セク
ハラなので訴えたら勝てると思っ。

黙っていたら金平糖を口の中に入れられた。甘かった。

甘かったので、つい……本音が出た。

助けて。『応』と答えがあった。

5. “Advice from a Caterpillar”

私はどうしたら良いかわからなかった。

私は自分の夢を叶えたかったただけなのに、家族や友達と一緒に楽しい思い出を作りたいただけなのに。

どうしてこんなことになったのかまるでわからなかった。

私の夢は悪いことだったのかな？ 答えは無い。

私の技術は悪いことだったのかな？ 答えは無い。

私の夢は叶えちゃダメだったのかな？ ふざけるな、と怒られた。
やっぱり……

『科学技術の発展が戦争の高度化を招き、悲劇を増やしたと揶揄されるが、最大の問題は純粋に未来を願い研究した科学者の成果を！戦争に利用した権力者だろうが！ 相対性理論を提唱したアインシュタインは悪か！ ダイナマイトを開発したノーベルは悪か！飛行機を発明したライト兄弟は悪か？！ どの誰だか知らんが、科学者に喧嘩を売ったことを後悔させてやるッ！』

その日、私は生涯の知己を手に入れた。

6. “Pig and Pepper”

その日は朝から大忙しだった。

私が開発した『白』の詳細データと運用記録、そしてミサイルが発射された当時の世界中の通信記録。

それらを一纏めにし、なおかつ椅子に根が張ってるんじゃないかというくらい腰が重い日本の重鎮たちを飛び上がらせるような行動スケッチ記録も一緒にする。

それと並行して真に信頼できるであろう有力者も探す。

せーちゃん曰く『敵を作るだけじゃダメだ。味方や中立も見つけて三竊みにすれば時間も稼げる』らしい。

自分周りだけという狭い世界しか見ていなかった私には、目から鱗が落ちる思いだった。

私は自分が興味がある人と無い人と、二極でしか世界を見ていなかった。そのせいで“自分に興味を持つ人”を見ていなかった。

『社会性を知れ。世界は“それだけ”で完結するほど簡単でもなければ複雑でもないぞ……なにい?! あの清纯派巨乳アイドルが結婚秒読みだとう! ゆるせん!』

まさに至言だと思つ。でも他の女に目を向けたのは許せないのでお仕置きしようと思つ。

7. “A Mad Tea-Party”

目の前のテーブルには湯気のたつ緑茶。

隣には難しい顔をしたせーちゃん。

向かいには扇子で口元を隠し、薄く笑う阿曇あつみ磯良いしりょうという名前の
お婆さん。

せーちゃんがやっとの思いで探し出した、信頼できるが一筋縄ではいかない有力者。

一世一代の会談が始まる。失敗は、許されない。

何の御用かしら？ 手を貸してほしい。

なぜ？ 一ヶ月前のミサイル発射事件、その真犯人を見つけた
め。

なぜ？ あれは『白騎士』を作った人間が起こした事件じゃない。

なぜ？ 『白』を作ったのは私だから。

なぜ？ 私の夢を叶えるため、家族みんなや友人と一緒に星を見たかつ

た。

なぜ？ 『白』を作るときの資金集めをしている時にお金の流れを探られて見つかった。

なぜ？ 『白』の技術が世間一般のそれよりも逸脱しすぎていたからだと思う。

なぜ？ …… 一生懸命がんばった。

なぜ？ 妹の、楽しそうにしている笑顔が好きだったから。

……なぜ？ 貴女が先々代『楯無』だから。

なぜ？ 色々調べた。表も、裏も、その裏も。

なぜ？ 私の夢が迷惑をかけたから、だから私ガッ……またはたかれた。

『阿呆、私たち、だ』

クスクス、なぜ？ …… 私たちが、売られた喧嘩を買うから。

…… 沈黙が怖いなんて初めて知った。

『ダメねえ』 ……

『誠二郎君。こつこつとときはどつどついつのかしら？』 ? せーちやん？

『あー、言わなきゃダメですか？ 伯母さん』 伯母さん？ 身内
だったの？！

『もちろんよ』 ……

『……………、惚れた女が泣いてるから助けてい。それだけです』
！！！

『助けましょう』 ……

人間、顔から湯気が出るんだと初めて知った。

8. “The Queen’s Croquet Ground”

敵の正体がわかった。『ファントム・タスク亡国機業』という名の、第二次世界大戦
頃から世界中の戦争をコントロールして利益と権利を得ている軍産
複合体らしい。

『楯無』とも何度もぶつかっているらしく、その規模や最大人員
数は未だに謎のままだという。

しかも各国の上層部や軍部にもその手は伸びているとの事。なる
ほど、あのミサイル発射は軍部内のシンパの仕業か。

下手に潰すと私のとき以上に世界が混乱するといわれた。どうし
よう。

おばーちゃん（こう呼べといわれた）に相談してみた。

『最初は足元（はもと）から固めましょうか。まず自分の安全確保（あんぜんかくほ）からね？
そうしたらISを世界にばら撒きましよう』

？ それは一番やっちゃいけないことじゃないの？

『いいえ、『白』君のスペックを見せてもらいましたけれど、あれは良くできているわ、乗る人の安全を第一に考えている』

……褒められた、嬉しい。すごく、嬉しい。

『しかも現行兵器の何倍も優れた性能を持っている。これを利用しない手は無いわ』

どづいづいこと？

『質量兵器開発の規模縮小。そして戦争の縮小。ISはそれができる“人の隣に立つ存在”になれる可能性を秘めているわ』

言葉が、無かった。

自分の夢で、戦争が無くなると言われた。

自分の夢が、人の役に立つといわれた。

自分の夢と、共に歩んでくれる人がいると、言ってくれた。

私はこの日、涙は嬉しくても流れるのだと、初めて知った。

9. “The Mock Turtle’s story”

『白騎士事件』から一カ月半後、未だ混乱の収まらない官邸へとおばーちゃんと一緒にやってきた。

おばーちゃん曰く『腰の引けた坊やに灸を据えにきたのよ』らしい。

目の前にはニュースで見たことがある人がいた。うわ、生で見ちゃった。

『こ、これは更識のご隠居様、ご用命頂ければこちらから迎えをやりましたのに』

『世辞は結構よ。過日からの対応、日本はいつたいどう処断するつもりかしら？』

お、おばーちゃんが怖い。

『そ、それはですね、何分前例のないことで、私たちも良く吟味して……』

あー、これがよく言う玉虫色の回答かあ。

『お黙りなさい！』

『！！』

10. “The Lobster-Quadrille”

……疲れた。

色々。東さん人生というものを心底甘く見てたよおう。

だれだー、天才なら人生どうにでもできるなんていったやつー、私だー！

『……お帰り』

ひうわ！ た、ただいまですよー？ せーちゃん。

『あー、なんだ。ご苦労さん』

ナデナデ あ……えへへ、うん。後もうちよつとで一区切りだしねー、一緒にがんばるぞー！

『おー』

11. “Who Stole the Tarts?”

私たちがその場についたときには、すでにほとんどの国の代表者が席に着き、周りをまるで壁のようにマスコミが囲んでいた。

怖い。

足から力が抜けそうになる。腰が砕けそうになる。気を失いそうになる。

でも、負けてやらない。私は、独りじゃないから。

私が席に着いたとたん、開式の挨拶も待たずに各国が罵倒を投げかけてくる。

『兵器』、『憲法違反』、『人道に反する』、『情報をよこせ』、『危険だ』、『破棄しろ』

『日本がいつ戦争を仕掛けてくるかわからない』、『明け渡せ』、『キチガイ』、『嘔吐き』

『責任を取れ』、『製作者を我が国に』、『暴挙』、『国籍を委譲せよ』、『権限を手放せ』

『撃墜された』、『謝罪と賠償を』、『戦犯』、『ソノオンナガハンニンデハナイノカ』

あ、だめだ。泣くな私。

ここで泣いたりしたら全てがだめになっちゃう、約束したんだ、
『白』と。

きつと、自由に飛べる空に連れてってあげるからって
から、だから
だ

……強く、手を握られた。

それだけで、たったそれだけで涙は引いた。

そこから反撃の開始だった。

今までただ黙って話を聞いていた日本首相が、突然机に強く拳をたたきつけ、静かに、けれど会場全てに響き渡るような声で囁いた。

『……先ほどから何一つ当件に対するご質問が無いようなので、私から皆様に一言申し上げたいがございます……日本国といたしましては、自衛権の放棄は一切！ しておらず、今回当国家に対して発射された総数二千三百四十一発のミサイルを打ち落としましたことは、なんら我が国の憲法に反する物ではなく、またその後派遣された艦隊につきましても、こちらからの救助要請も無い上での派遣であることは確認済みであり、日本国家といたしましては平和条約に基づき、強く！ 各国へとこの行為を抗議いたしたく存じ上げます……また！ 発射されたミサイル、および艦隊を一人の死者も出すことなく退けたのは我が国民の有識者の善意の協力の下なされたことであり、この場を借りて深く、御礼を申し上げます』

一言じゃない、などという野次を飛ばせる雰囲気ではなく、マスコミはおろか、各国の代表すらもその威圧に飲まれ、誰一人発言することができずにいた。

(東、東。) は、あまりの存在感に私も飲まれちゃったよ。

いや、せーちゃんのお父さんすごいね！ 官邸のときとは大違いだよ！

さー、私もレッツ猫かぶりモード

『……いえ、私も日本国民としてできる限りのことをさせていただきただけですから。……皆様、初めまして、私が『白騎士』

ISと呼称しております機体を製作いたしました篠ノ之 東と申します。この度は私どもの分を弁えぬ行いで皆様に多大なるご迷惑をおかけしたこと、深くお詫び申し上げます。これも偏に国を思う心からこの行いとご容赦願います。お詫びの代わりにもならないとは思われますが、私どもからご希望された皆様へISの基礎設計を提示させていただくご用意ができております。中心部につきましてはなにぶん材料に限りがございますので、こればかりは皆様での分担となつてしまいますが、できうる限り公平に分けられるよう、努めさせて頂きたいと存じ上げます』

その後は語るまでも無かった。

作れる人は手に入らなかつたけど、その設計や、中心部まで手に入れることができる！ と色めき立った各国は、先ほど罵声を浴びせたことなどすっかりと忘れ、首相や私にまでにこやかに話しかけてきた。

あーあー、これはアレだね。印象を浴して少しでもコアをせしめる気だね！ やなこつた！

コアの分担数については後日ISの運用規定を各国間ですり合わせるべきにということ、その場は解散となった。

こうして、期間にすれば三ヶ月ほどの　　けれど私にとっては人生で一番長い戦いが、いったん幕を閉じたのだった。

12. “Alice’s Evidence”

夢を叶えた『白』は世界中に羽ばたき、それを見守る私たちは世界に受け入れられた。

人の隣に並び立つのは優しい機械。翼はもつとたくさんの人を空へと運ぶだろう。

世界はこれから大転換を迎える。色々と大変なことも起きるだろう。

けれど私は孤独じゃない。一緒に歩いてくれる人がいるのだから。

ああ、ああ、世界は　　こんなにも素晴らしい。

私は冀望^{ねがう}、私は憧憬^{ねがう}、私は希求^{ねがう}。

私は、優しい^{ふしぎのくに}の王国^{アリス}の願う人。

フラグメント？ く篠ノ之 束々（後書き）

束さんが『初めて知った』こと。
それが彼女が変わった理由。

人物紹介（前書き）

IS（翼をください）の主要人物の紹介となります。

なお、原作と乖離しているキャラもいますが、この作品独自の設定となっておりますのでご了承よろしくお願いいたします。

人物紹介

事前情報のため所々重要情報を抜いて掲載しております。話数が進むにつれて徐々に更新していきます。

主人公：二之前 にのまえ はるつぐ

所属：日本国国家防衛機構『国土管理室』機甲部隊所属。国家代表 IS 操縦者 ライザー

備考：

純日本人らしい黒髪を持つ長身痩躯の少年。

生まれつき視力が弱く（裸眼で0.01程度）、ISを半起動状態トドにしてセンサーを通さないと日常生活も危ういため、寝るとき以外は常に目元を覆うバイザーを使用している。（クラリツサが『黒の王子！』とか言ってたがナンノコトヤラ）

本来であれば女性しか動かせないISを動かしてしまったために強制的に国家所属となったが、当時の代表よりも高い適正と、世界で唯一という希少性から他国に取られないように国家代表として日本国内に拘束された過去を持つ。

趣味は家事全般。今一番欲しいものはと聞くと「洗剤革命」と答える剛の者。

専用ISは第2.5世代型、情報戦特化隠密機動型IS『白兔』はくち

詳しいスペックは機体紹介ページにて公開しております。

『む……この味噌汁の出汁は、土佐節かつ』

姉一号：ラウラ・B・二之前 ボーデウィッチ

所属：日本国国家防衛機構『国土管理室』機甲部隊所属。国家代

表 I S 操縦者候補生

備考：

どうしてこうなった1号。

銀系のような長い髪と、紅玉のような赤い瞳を持った元ドイツ人。眼帯はしていない。

とある理由からドイツではなく日本の代表候補生をしている。

ドイツ政府と織斑千冬に対して隔意を持っている。

身内に対しては自分のことを『姉』と呼び、第三者に対しては『私』と呼称している。

クラリツサには良く眼帯着用を迫られ、更にチンク姉とか言われるとキれる。けど使用 I S の装備の中にランブルデトネイターもどきがあるのは公然の秘密。

専用 I S は第 2・5 世代型。詳細は今のところ不明。

『私は、貴女を……絶対に認めない』

姉二号：クラリツサ・H・二之前

ハルフォーフ

所属：日本国国家防衛機構『国土管理室』機甲部隊所属。国家代表 I S 操縦者候補生

備考：

ラウラと同じようにとある理由から日本所属の候補生となった元ドイツ人。

元もとの素養があつたのか、日本のアキバに非常に馴染んでいる。なじむ 実に！なじむぞ フハハハハハ。

好きなものはアニメ・漫画など二次元系。龍玉よりは漂白剤派。

G はクロスボーンが至高と言って憚らない。某ゲルマン忍法の人と鳴門を見て N I N J A とはかくあるべしと思っていたが、仮面の忍者赤影を知ってカルチャーショックを受ける。筆者はどっちもどっ

ちだと思っ。

専用ISは第3世代型。詳細は今のところ不明。

『武装は“神殺鎗”……いや、“大紅蓮氷輪丸”も捨てがたい
！』

嫁一号：更識 簪

所属：日本国防衛機構『国土管理室』機甲部隊所属。国家代表IS操縦者候補生

備考：

ブルーブラックのセミロングを内側にカールさせ、眼鏡をかけたロシア系の血を持つクォーターの少女。

自由奔放な姉とは違いやや内気だが、ネタに走ると元気になる。国防諜組織にして、裏工作を実行する暗部に対する対暗部用暗部『更識家』の当主の妹であったが、日本所属組織の当主であるのにロシア代表となってしまうた姉と仲違いをして出奔。自身は日本人であるという誇りを胸に『国土保安室』に所属し、代表候補生となった過去を持つ。

クラリツサとは同好の士ではあるが、こちらは実写派。戦隊シリーズも変身仮面シリーズもいけるが、一番好きなのは宇宙刑事シリーズ。ISを展開するときの掛け声をシリーズのどれにするか本気で迷っている。

専用ISは純国産ISである打鉄の発展型であり国内初の第3世代型。開発コード『打鉄式』、正式名称『黒鋼』

『私は、この黒鋼で守る！』

蒸着ッ！』

最強姉：織斑 千冬おりむら ちふゆ

所属：国連IS専門育成学校。通称『IS学園』

備考：

どうしてこうなった2号。

いわずと知れた第一回IS世界大会において総合優勝を飾った元日本代表ISライダー。

この作品においては第二回モンド・グロツソ決勝戦のときに誘拐された弟（一夏）を助け出すことができず、しかも決勝戦を放棄してしまったために日本代表の座も下ろされてしまった。

大会終了後は誘拐された一夏の情報を求め、自身の技能や経験教授を対価に情報収集の協力を求めて各国を転々とするも見つからず、2年ほどたち国際IS委員会に『各国で教官をしているならIS学園で腰をすえてやれ』と命令されてしまい失意のうちに帰国。まさに地獄のような人生を歩んできたと言えるだろう。

原作とは違い、笑うということがなくややネガティブ思考。うなる出席簿はこの作品においては存在し得ない。

『誰も彼もが私を哀れみ、賞賛し、完璧であれと言う……誰も、“私”を見てくれない……』

幼馴染1号：篠ノ之 篤のの たくみ

所属：国連IS専門育成学校。通称『IS学園』

備考：

原作とほぼ同じ経験と人生を経ているために特に大きな変更点はない。

が、一夏が誘拐されて行方不明ということを知らないために、転入してきた主人公を見て、最初一夏ではと勘違いをしてしまう。

以降も時折主人公の動向を見て一夏と比べてしまいうことになる。
やがてそれがとんでもない事態を生むことに……

『…………一夏、なのか？』

幼馴染2号：鳳ファン 鈴音リンイン

所属：国連IS専門育成学校。通称『IS学園』

備考：

原作とは違い、帰国するための転校前に一夏が誘拐されてしまったために、憎からず思っていた親しい友人との別れを強制的に経験させられた幼馴染。

だが酢豚の約束前だったために『自分が本当に一夏のが好きだったのか』が曖昧となっている。

この作品においては転入ではなく、入学式からIS学園に所属している。

専用ISは中近格闘型ISの『甲龍シエンロン』

『あたしは！ アンタの容姿かおに惚れたんじゃない！

想こころいに惚ほれてたのよ！！』

ちよろいさん：セシリア・オルコット

所属：国連IS専門育成学校。通称『IS学園』

備考：

原作とほぼ同じではあるが、主人公（男）が日本代表であるということと、イギリスの第3世代機が欧州機イクエニッション・フラン甲開発連合において実用化には先んじているものの性能は最も劣っているという事実から、

実用性・操作性共に世界トップクラスの機体を開発している日本に
対して強烈な敵対心を持っている。

専用ISは遠距離特殊型のブルー・ティアーズ。

『それが、私の“ノーブレス・オブリージユ貴き誓い”だからですわ!』

皆のアイドル：シャルロット・デュノア

所属：国連IS専門育成学校。通称『IS学園』

備考：

どうしてこうなった3号。

原作とは最もかけ離れている原作ヒロイン。

入学式からIS学園に所属しており、かつ男装もしていない。

そもそもこの作品においてフランス・デュノア社は日本企業と提
携し、欧州各国の中で最も早く第3世代機を開発させた実績を持つ
世界シェア不動の第二位の地位を持っている。(一位は日本)

本妻との仲は変更なく悪いままだが、そもそもデュノア社長自体
の好みがおつとりした大和撫子タイプなので、本妻との仲は冷え切
っている。(ご都合主義設定)

IS学園に入学している理由は、第3世代機の試験運用もあるが、
一番の理由は本妻と距離を置かせたかった父親のいたわりから。

専用ISは汎用特殊型の『オラージユ・ルージキユール』。詳し
いスペックは作品内に登場してから掲載します。

『行って、私の騎士たち!』

夢見る天才：篠ノ之 束たばね

所 属：日本

備 考：

原作や他作品様に良く見られる黒幕束さんではなく、綺麗な束さんが書いてみたかったことから生まれたどうしてこうなった0号。

原作とは違い雲隠れはしておらず、日本国籍を持ったまま独自にISの開発を進めている。

しかしコアの数は変わらず。この辺りの原因は簡単に言うと『材料がもうない』為。

詳しいことは作中にて。

『やあやあ、天才の束さんだよ』

・その他

阿曇 磯良 あづみ いそり

『国土管理室』室長。

旧姓、更識 磯良。先々代『楯無』

上品に年をとったお婆さんといった風体を持つ女性で、未だに当代の楯無でも敵わない実力を誇っているとか。

天目一箇 誠甘郎 あまのまひとし せいじょう

『国土管理室』室長補佐兼技術官

もともと技術畑の人間で、束とも面識があつたために任命された。

束いわく「せーちゃん」

思兼 運明 おもいかね きたあき

『国土管理室』情報統括官

結構頻繁にクラリッサや簪にこき使われてネットショッピングの

代行をさせられる不遇の男。

建比良たけひら 飛鳥あすか

『国土管理室』通信官

元声優だったが、その美声をクラリツサに買われ通信官になる。
クラリツサエ……

山田 真耶

IS学園1年1組副担任。

おっぱい眼鏡。これ以外にどう説明しろと……

更識 楯無

IS学園生徒会長。

当代『楯無』

日本代表の座を妹に譲るために自身はロシアの候補生になったが、それが妹との仲違いの原因になるとは思いもよっていなかった。

何とかして妹との仲を修復しようとするも、その飄々とした性格からまともに取り合ってもらえていない不遇の人。

織斑 一夏

原作主人公。

存在はしてます。でも今どこで何をやっているかはネタバレにつき不明。

機体紹介（前書き）

この作品におけるISの性能は原作と異なり、防御のためのシールドエネルギー（基本600固定）と攻撃や機動のための稼働エネルギー（世代や開発状況により変動）の二系統に分かれている設定となっております。

故に、瞬時加速などを多用してシールドエネルギーが減るということは原則ありえませんが、絶対防御が発生してシールドエネルギーが0になっても安全上の観点からISが即解除されたり装着者が気絶したりすることはありません。

唯一の例外が“零落白夜”ですが、これは『防御力』で『防御力』を相殺し、直接操縦者に攻撃するいわゆる『ダイレクトアタック』をして絶対防御（機体の全エネルギーを消費して操縦者を十数分間守る最終防護機能）を発生させるもの、とお考えください。

シールドエネルギーを『防御力』。稼働エネルギーを『攻撃力』と考えて、1回の攻撃や防御にコストがかかり該当数値が減っていく、『防御力』が0になると『攻撃力』が残っていても敗北（白式が代表格）、『攻撃力』が0になると行動不可能でたこ殴り（紅椿が代表格）。と考えると簡単かもしれませんが。

……こう考えると束さん欠陥機しか作ってなくねえ？

話を戻して。実体兵器系は総じて攻撃力・コスト共に低く、エネルギー兵器は攻撃力・コスト共に高いので、原作において束謹製機体以外では実は一番燃費が悪いのは主兵装がエネルギー兵器しかないティアーズと福音というオチ。

機体紹介

機体名：情報戦特化隠密機動型IS 『はくと白兔』

使用者：二之前 春次

コンセプト：

一撃必殺の威力を持った装備はないが、戦闘継続能力や諜報、力ウンターアタックに特化した第2.5世代型IS。

機体の色は薄灰色地で装甲の淵が薄紅色に染められており、顔の上半分を覆うフェイスバイザーと6基のスラスターと腰から膝あたりまでを覆うキョウテレット腰椎部装甲を持つ。

色とスラスターの数以外の基本装甲は白騎士と非常に似通っている。

ベーシック基本装備：

・アクセルスラスター 『ぜつえい絶影』

小型だが初期設定状態の白式並みの出力を持つアンロックユニットタイプ非固定浮遊部位型のスラスターが6基。

白式ほどの加速度はないが、小距離の連続したリボルバー・イグニッション・ブリスト個別連続瞬時加速をえる（ブリスト・冷却・チャージとスラスターを交代で使用することにより連続使用が可能）

・ミラージュサーフィス 『じゅうじゅういんえ十二単』

イコライザ周囲の景色を転写させることにより機体を消す光学迷彩装甲。他の拡張装備などを組み合わせることによりよほど高性能なセンサーでもある程度の時間誤魔化す事が可能だが、飽くまで誤魔化すだけ

でしかない。

拡張装備：イコライザ 全てが装備されているわけではなく、状況によって入れ替えがある。

・竜胆・紅薊りんどう べにあざみ

高周波振動小太刀。

第2世代の実体盾程度であれば軽く切り裂ける性能を持った剣。ソリッド・シールド

・梅檀せんたん

テニスボール大の電磁吸着型炸裂弾。マグネティックマイン

・枸橘からたち

展開時は手首部にマウントされるニードルガン。

圧縮空気によって発射されるためサイレンサー並の静音性を誇る。

・翠楊すいよう

両手の指の部分から発射されるワイヤードクロー。

カーボンナノチューブをより合わせたワイヤーを使用されているため、見た目の細さに反して非常に切れにくい。

・墨蔓すみかずら

足の大腿部に接続されているモビィディックアンカー。

翠楊と同じくカーボンナノチューブ製。

・煌扇きうせん

エネルギー攻撃を減衰させる効果を持つリフレクションチャフ。

・白風しやうふう

特殊な電磁波を発生させ、ハイパーセンサーを一時的に麻痺させるジャマー。

EMCを備えている機体にはあまり効果がない。

せんかく
・千鶴

空間に映像を投射させるホログラフィックカモ。

パーソナル・スキル
個別技能：

下ツヘルランナー
・影法師

アクセルスラスタの最大運用により、0 - 1000 - 0の機動を連続して行うことにより残像を発生させることができる。

ただしPICの限界を超える機動のため、搭乗者と機体にて過度の負担を強いるものであり何度も使えるものではない。

ラビッドスイッチ
・高速切替

複数並列思考を用いて戦闘と同時進行に適宜武装を呼び出す技能。

春次は3つまで並列させることが可能。(シャルロットは5つまで可能。)

ワンオフ・アビリティ
単一仕様能力：不明。ただし存在はする。

機体名：?????

使用者：ラウラ・B・二之前

コンセプト：

『白兔』の兄弟機として開発された機体。

高機動射撃型に分類されている。

ベーシック
基本装備：?????

拡張装備イコライザ：????

単一仕様能力ワンオフ・アビリティ：????

機体名：?????

使用者：クラリツサ・H・二之前

コンセプト：

重装甲・高火力に特化した機体。
弾幕は火力パワーだぜ がモットー。

基本装備ベーシック：?????

拡張装備イコライザ：?????

単一仕様能力ワンオフ・アビリティ：?????

機体名くろがね：黒鋼

使用者：更識 簪

コンセプト：

国内初の第3世代型ISとして開発されたIS。
防御重視の打鉄と違い、機動性に特化している。

基本装備ベーシック：

・山嵐 ヤマアラシ

イメージインターフェイスを用いた第3世代兵器。
マルチロックオン・システムによって6機×8門のミサイルポッドから最大48発の独立稼働型誘導弾を発射する。黒鋼が持つ武装の中で最大の火力を誇るが、実はリロード不可能で一回全弾発射すると後がない欠陥兵器でもある。

拡張装備 イコライザ :

・春雷 コシノイハヒ

背中に搭載された2門の連射型荷電粒子砲。

・夢現 ゆめげん

近接武器である対複合装甲用の高周波振動薙刀。

・枸橘

ワンオフ・アビリティ
単一仕様能力：不明。

機体名：?????

使用者：?????

コンセプト：?????

基本装備 ベーシック：?????

拡張装備 イコライザ：?????

ワンオフ・アビリティ
単一仕様能力：？？？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5258s/>

IS ~翼をください~

2011年4月25日16時51分発行